

各 位

会 社 名 日華化学株式会社  
代表者名 代表取締役社長 江守康昌  
コード番号 4463 名証第2部  
問合せ先 執行役員 管理部門 副部門長  
澤崎祥也  
TEL (0776) 24-0213

## N I C C A 中期経営計画について

この度、当社グループは、2014～2016年度を計画年度とする中期経営計画を策定しましたのでお知らせいたします。この計画は2010年策定の「長期ビジョン2016」の到達点である2016年度を最終年度としています。

当社グループを取り巻く世界経済は、不安定な為替変動や人件費高騰等により新興国の成長鈍化が懸念されるなど先行きは依然不透明です。また、FTA/EPAなど各国連携のしくみが大きく変化し、国内でも産業の空洞化や、少子高齢化等に伴う消費ニーズの変化が予想されるなど、事業を取り巻く環境は日々スピードを増して変化しております。

この様な経営環境の中、当社グループは様々な変化をチャンスと捉え「全社基本ビジョン」のもと各施策に取り組むことで、お客様、社員、株主、そして社会から信頼され選ばれる企業を目指します。

### 1. 全社基本ビジョン

#### 「NICCAブランドを浸透拡大し、GLOBAL BESTになる」

当社グループでは、GLOBAL BESTを目指し、永続的に成長していくために必要な経営軸を、以下3つに定めています。

- (1) 徹底的に効率化された強い企業になる (Efficiency)
- (2) 未来を豊かにする企業になる (Innovation)
- (3) 『NICCAブランド』が価値を生む企業になる (Sustainability)

当社グループは、70余年に及ぶ歴史の中で蓄積してきた、界面化学・毛髪科学をコアとする技術開発力、アジアを中心に世界各国に展開した顧客対応ネットワーク、そしてそれぞれのフィールドでプロフェッショナルに活躍する社員を有しており、まさしくこれらの総合力こそが「NICCAブランド」であると位置づけています。

当社グループは徹底的な効率化のために変えなければいけないもの、「NICCAブランド」として変えないものを見極めながら、地球環境や人々の暮らしに貢献し続けるGLOBAL BESTな企業を目指してまいります。

## 2. 中期経営計画

全社基本ビジョンをもとに下記、中期経営目標及び中期経営テーマに基づくグループ基本戦略を策定しています。

### ◆2014年度～2016年度 中期経営目標

- ・NICCAグループのシナジーを最大限に発揮し、売上高500億円、営業利益40億円を目指します。
- ・NICCAグループが一丸となって、お客様はじめ取引先、地域社会の価値を高め、信頼される強固な「NICCAブランド」を築きます。

### ◆中期経営テーマ

- (1) 徹底的に効率化された強い企業を目指し、抜本的構造改革を行う
  - ・事業の選択と集中を推進し、コア事業NO. 1を目指す
  - ・グローバルでのローコストオペレーションを実現する
  - ・経営基盤を強化する
- (2) 未来を豊かにする企業を目指し、技術革新を巻き起こす
  - ・少子高齢化に対応できる健康（医療・福祉）分野への展開を推進する
  - ・地球を守る環境・エネルギー分野への展開を図る
  - ・人々の暮らしを豊かにする先端技術分野で、基盤技術を確立する
- (3) 「NICCAブランド」を磨くことで、不変の独自性を追求する
  - ・8カ国12拠点のネットワーク活用で、世界のお客様を徹底的にサポートする
  - ・界面化学、毛髪科学のコア技術に磨きをかける
  - ・創業から脈々と流れる「大家族主義」をグローバルに展開する

### ◆連結業績目標

	2013年度実績*	2016年度目標	年平均伸率
売上高	37,735百万円	50,000百万円	9.8%
営業利益	3,021百万円	4,000百万円	9.8%
ROA	7.4%	8.0%	0.6%(対13増減)

#### 【事業別売上高】

	2013年度実績*	2016年度目標	年平均伸率
化学品	29,919百万円	40,000百万円	10.2%
化粧品	7,816百万円	10,000百万円	8.6%
計	37,735百万円	50,000百万円	9.8%

#### 【事業別営業利益】

	2013年度実績*	2016年度目標	年平均伸率
化学品	2,449百万円	3,300百万円	10.4%
化粧品	1,913百万円	2,300百万円	6.3%
消去及び全社	▲1,341百万円	▲1,600百万円	-
計	3,021百万円	4,000百万円	9.8%

\*2013年度実績は決算期変更により参考値となっております。

## ◆グループ基本戦略

### (1) 化学品事業の深化

基本方針：卓越した技術開発力と顧客対応力の強化により、コア事業での圧倒的NO. 1を目指す

#### A. 繊維化学品グローバルNO. 1

当社グループの強みである繊維事業分野に経営資源を集中特化し、グローバルNO. 1を目指します。エリア戦略として繊維最大の市場である中国を中心に、チャイナプラス1としてASEAN諸国とともに市場シェア拡大を行います。また長期的展望のもと、新興諸国等への進出を模索していきます。

#### B. 新規事業の創出

合成化学分野の技術力を磨き、卓越したAO付加技術を確立すると共に、スペシャルティメーカーを目指し、鹿島工場の拡張（予定）を行います。また、高分子合成技術の強化や電子材料、医療・福祉分野等への新素材の展開を図ると共に、グローバルなオープンイノベーションの産官学共同プロジェクトを展開していきます。

#### C. ローコストオペレーションの実現

8カ国12拠点で展開するグローバルネットワークを最大限活用し、最適な原料調達、生産体制を確立することで、市場における競争力を強化します。

### (2) 化粧品事業の拡大

基本方針：美容プロフェッショナルクオリティを堅持し、お客様から圧倒的な支持を得ることで成長する

#### A. ノミネート戦略・店販戦略

美容業界が少子高齢化等により縮小傾向の中、パートナーであるサロンと共に店頭販売に注力し、ヘアケア剤拡販を展開します。

#### B. マルチブランド戦略

成熟業界で商品のコモディティ化が見られる中、明確な付加価値を持つ複数ブランドを展開していきます。デミ コスメティクス、イーラル、アンサーージュの増強および拡大を図ると共に、次期ブランドの企画、開発を行います。

#### C. 多角化・多国化戦略

関連子会社である山田製薬株式会社への設備投資（予定）を行うなど、OEM・プライベートブランド受託を積極的に推進します。また海外展開として韓国（デミコリア）への深耕を図るほか、新興国におけるビジネスモデルの模索を行います。

### (3) 経営基盤の強化

基本方針：持続的成長を支える経営基盤を整備するとともに、グループガバナンスを徹底的に強化する

#### A. 財務体質の強化

キャッシュマネジメントにより、グループ内資金の効率的な運用を行うと共に、BS（バランスシート）の圧縮によるスリム経営へシフトチェンジします。

#### B. 次世代人材の育成

グローバル人材の育成や、各国の現地経営幹部育成に取り組み、真のマルチナショナルカンパニーを目指します。また創立以来続く大家族主義を日華化学グループ全体で継承、浸透させていきます。

### C. グループ情報の戦略的活用

当社グループ統一の基幹インフラを構築します。情報を整備し、共有することでグループにおける全体最適化を促進します。

### D. 危機管理体制の強化

安全第一の推進、及び危機の想定と対応策の徹底を行います。

## 3. 事業分野別の取り組み

### (1) 化学品関連事業

各種工業用・産業用界面活性剤に関連する事業分野です。

当社グループの主力となる繊維分野（繊維加工・自動車資材用薬剤等）の他、ファインケミカル分野（情報記録材料等）、クリーニング&メディカル分野（業務用洗剤等）、特殊化学品分野（AOA事業、樹脂用・各種機能性薬剤、その他）がこの事業分野になります。

2012年に当社は事業の「選択と集中」を行い、その一環として、花王の海外繊維事業の買収や、MORESCOとの金属事業に関する提携を行いました。化学品事業はアジアの繊維分野及び新規事業へ経営資源を集中しなご一層の発展を目指します。

今般4月に竣工する台湾の新研究所を含め中国研究所および本社の相乗効果により、スピーディで革新的な製品開発、技術サポートの徹底を行い、顧客対応力の強化によりシェア拡大と利益率の向上を目指します。

### A. 繊維分野（繊維加工用薬剤等）

グループネットワークを最大限に活用した開発・製造・販売体制により、世界の繊維・アパレル・インテリア・自動車業界に採用される製品及び技術の提供を目指します。国内戦略は事業基盤である工程薬剤の安定供給、および機能加工剤である「難燃剤」「撥剤」などに注力し環境配慮と新たな価値提供につなげていきます。また長年の技術の蓄積を基に、一歩踏み出した新領域の事業創出についても積極的に進めていきます。

### B. ファインケミカル分野（情報記録材料等）

ファインケミカル分野は、中国生産拠点の戦略的活用により、従来から展開してきた感熱記録用紙市場において既存製品の拡販並びに新規製品の積極的開発によって、顕色剤のシェア世界NO. 1を目指します。またビスフェノールSを中心とした合成技術を核に、より広く化成品分野への展開を目指します。

### C. クリーニング&メディカル分野

主力であるドライクリーニング用薬剤は、クリーニング需要の低迷から市場規模の縮小傾向は継続している状況ですが、きめ細かいフォロー体制とテキスタイル分野で培った技術の応用による高付加価値薬剤、及び環境・安全に配慮した薬剤開発により、シェアの拡大を図ってまいります。

ホテル・病院等をフィールドにしたリネンサプライ市場については利用者に提供するリネン品の衛生意識の高まりを受けさらなる清浄化と衛生化を求められています。衛生管理を中心とした提案により深耕と拡大を図ってまいります。

また、拡大市場である福祉・介護分野で主に施設向けに感染症予防薬剤及び関連薬剤の開発にチャレンジし、メディカルサポート分野と位置づけて第3の柱構築を目指します。

#### D. 特殊化学品分野（A O A 事業、樹脂用・各種機能性薬剤、その他）

A O A 事業では、家庭用洗剤・工業用洗浄剤・消泡剤・製紙用脱墨剤等非イオン活性剤原料の他、ウレタン樹脂・ポリエステル樹脂等機能性樹脂原料の企画-研究-製造-販売を行っています。A O A とは、Alkylene Oxide Additives（アルキレンオキサイド付加物）の略称です。2010年に竣工した鹿島工場内には最新鋭のA O A 設備が導入され、コモディティ対応力・カスタマイズ対応力がより一層広がりました。高付加価値機能が求められる樹脂原料を始めとしてA O A 事業拡大を進めてまいります。

#### （2）化粧品関連事業

業務用頭髮化粧品・医薬部外品を「デミ コスメティクス」ブランドとして展開する分野では、従来から主力のヘアカラーだけではなく、ヘアケア、スタイリング、パーマ剤等にも注力し、総合美容メーカーへの転換を図ってまいりました。

またマルチブランド戦略として、製品だけではなくマッサージメソッドを美容室に提供する「イーラル」ブランドの上市、通販専用フェイシャル化粧品ブランドの「アンサージュ」、他社ブランドのOEM生産等、多角的に美容業界に事業展開を行っています。今後ますます多角化を進めると共に、韓国市場の更なる深耕、新興国市場への展開等、海外市場の開拓・推進を図ってまいります。

以上

この資料には、2014年3月4日現在の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。  
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

お問い合わせ先：日華化学株式会社 経営企画部 広報グループ  
TEL 0776-25-8551